

令和6年度第1回
モニターアンケート結果報告書
子どもの読書活動推進について

— 目 次 —

		ページ
アンケート概要		1
基本情報		
問1	あなたの年齢を教えてください。	2
問2	あなたのお住まいの地域（町丁目まで）を教えてください。	2
子どもの読書活動推進について		
問3	板橋区民として、地域の子どもの読書活動にどの程度の関心がありますか。	3
問4	地域の子どもたちが頻繁に読書をしていると感じますか。	3
問5	現在の子どもの読書環境（区立図書館、学校図書館、家庭での読書環境等）について、あなたの地域の状況をどう評価しますか。	4
問6	地域の子どもたちの読書習慣及び読書環境を向上させるために、地域（区立図書館、学校図書館、家庭での読書環境等）でできることは何だと思えますか。（自由回答）	4~9
問7	子どもたちが読書を通じて学びや成長をすることの重要性について、あなたはどのように考えますか。	9
問8	子どもが自発的に読書をするために、最も必要なことは何だと思えますか。（〇は一つだけ）	10
問9	電子書籍と紙の書籍、どちらを子どもたちにより推奨しますか。	11
問10	将来的に、インターネットとデジタル最新技術の普及が、子どもたちの読書習慣にどのような影響を与えようと思えますか。	11
問11	板橋区の子どもたちの読書習慣を向上させるため、区が取り組むべき主な取組みは何だと思えますか。（自由回答）	12~18

※ n (number of cases) は、その設問に対する回答者の総数を示しています。

質問によっては複数の回答を得たものがあります。

また、質問によっては、回答がなかった、もしくは、択一選択の質問に複数の回答があったため、総数について整合がとれていない部分があります。

1 アンケート概要

子どもの読書活動推進について

2 調査目的

板橋区では、子どもの豊かな感性や情緒を育て、生きる力を身につけることを目的に、子どもの読書環境の整備を進めるとともに、家庭・地域・学校と連携して子どもの読書活動を推進しています。

この度、子どもの読書活動の更なる向上及び将来に向けた子どもの読書環境の整備を目的とし、アンケート調査を実施します。

3 調査対象

- (1) いたばし・タウンモニター 51名
- (2) いたばし・eモニター 188名

4 調査方法

- (1) いたばし・タウンモニター 郵送またはインターネット回答
- (2) いたばし・eモニター インターネット回答

5 調査期間

令和6年4月5日（金）から令和6年4月19日（金）まで

6 アンケート作成部署

中央図書館

7 回答結果（回答率）

	回答数	回答率
タウンモニター	40人	78.4%
eモニター	92人	48.9%
計	132人	55.2%

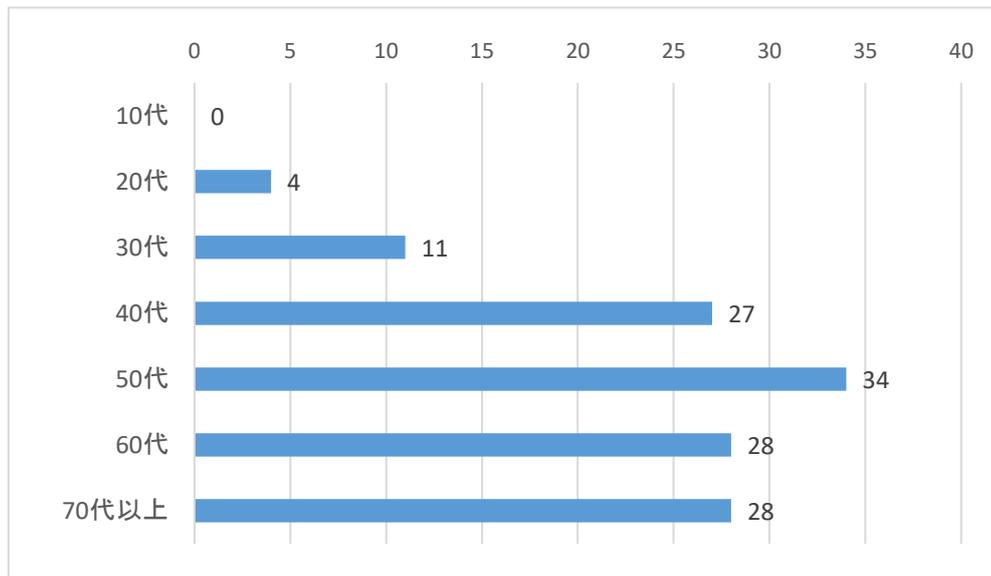
8 その他

紙面の関係上、同様の内容のものについては要約・省略をしているものがあります。また、ご意見・ご要望等で、アンケートに関連のない内容等については、割愛いたしました。

回答の比率（％）は、小数点第二位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100%にならない場合があります。

基本情報

問1 あなたの年齢を教えてください。



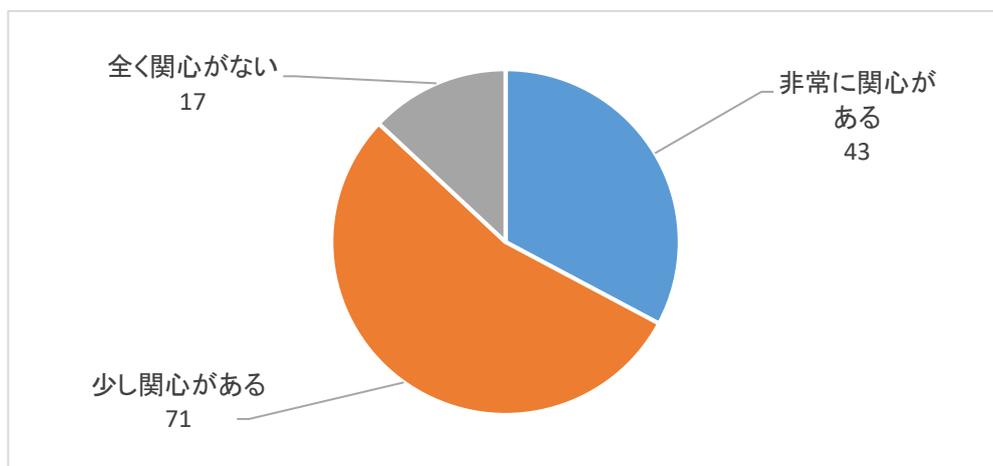
n=132

問2 あなたのお住まいの地域（町丁目まで）を教えてください。

相生町	1	加賀一丁目	1	常盤台一丁目	4	東山町	1
赤塚一丁目	1	加賀二丁目	2	常盤台二丁目	1	富士見町	1
赤塚三丁目	1	上板橋一丁目	1	常盤台四丁目	1	双葉町	1
赤塚四丁目	2	上板橋二丁目	1	徳丸二丁目	1	舟渡二丁目	1
赤塚五丁目	2	小茂根一丁目	1	徳丸三丁目	1	本町	3
赤塚六丁目	1	小茂根二丁目	1	徳丸四丁目	2	前野町一丁目	1
赤塚新町二丁目	1	幸町	2	徳丸六丁目	1	前野町三丁目	2
赤塚新町三丁目	3	栄町	2	徳丸（丁目記載無）	1	前野町四丁目	1
小豆沢一丁目	1	坂下二丁目	2	仲宿	6	前野町六丁目	1
小豆沢二丁目	1	坂下三丁目	1	中台一丁目	1	三園一丁目	1
小豆沢四丁目	1	桜川二丁目	1	中台三丁目	3	南町	1
板橋一丁目	1	桜川三丁目	2	中丸町	2	南常盤台二丁目	2
板橋二丁目	1	清水町	1	成増一丁目	1	向原一丁目	2
稻荷台	1	志村一丁目	4	成増三丁目	1	向原二丁目	2
大原町	3	志村二丁目	1	成増五丁目	1	大和町	1
大谷口一丁目	1	高島平一丁目	2	西台二丁目	1	弥生町	1
大谷口上町	1	高島平二丁目	2	西台三丁目	1	若木一丁目	2
大山金井町	1	高島平三丁目	3	西台四丁目	1	区外	1
大山町	3	高島平七丁目	1	蓮沼町	4	n=132	
大山西町	3	高島平八丁目	2	蓮根二丁目	4		
大山東町	2	高島平九丁目	2	蓮根三丁目	2		

子どもの読書活動推進について

問3 板橋区民として、地域の子どもたちの読書活動にどの程度の関心がありますか。

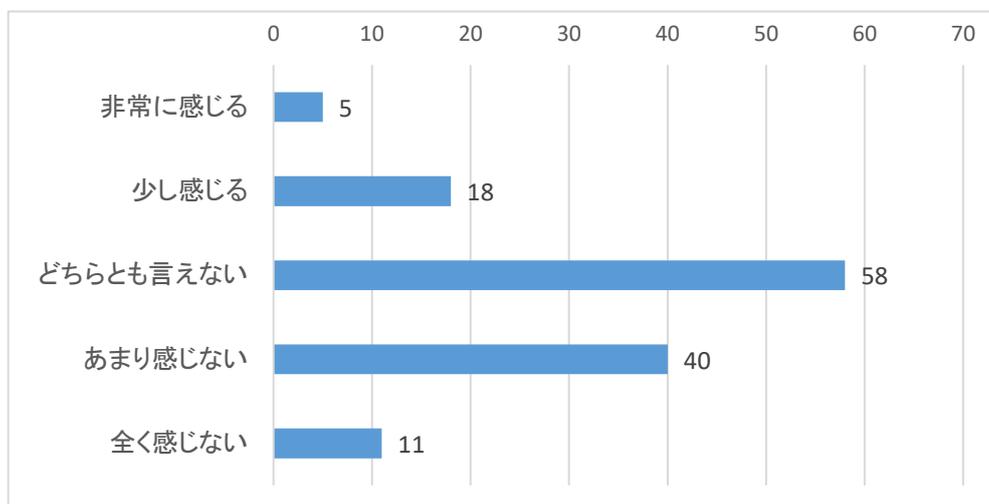


n=131

未回答=1

「少し興味がある」と回答した人が71人（54.2%）で最も多かった。

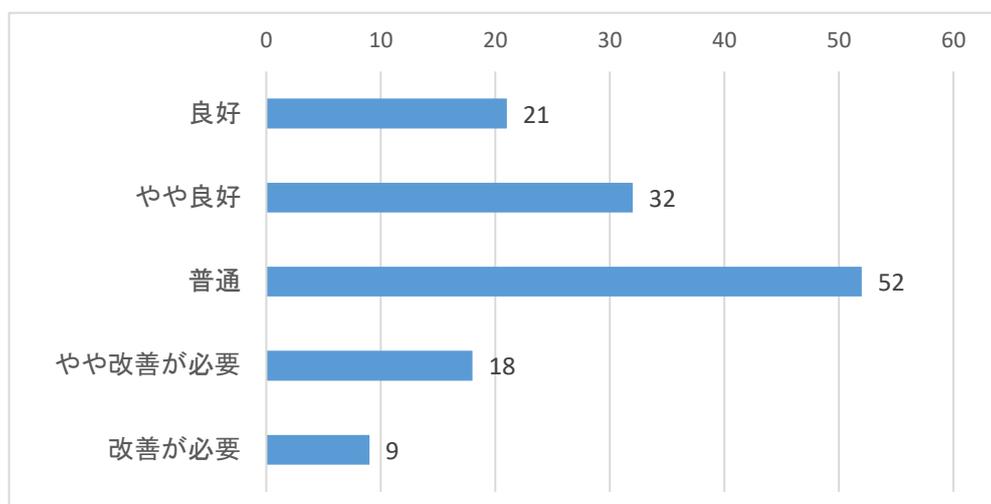
問4 地域の子どもたちが頻繁に読書をしていると感じますか。



n=132

「どちらとも言えない」と回答した人が58人（43.9%）で最も多かった。

問5 現在の子どもの読書環境（区立図書館、学校図書館、家庭での読書環境等）について、あなたの地域の状況をどう評価しますか。



n=132

「普通」と回答した人が52人（39.4%）で最も多かった。

問6 地域の子どもたちの読書習慣及び読書環境を向上させるために、地域（区立図書館、学校図書館、家庭での読書環境等）でできることは何だと思いますか。（自由回答）

地域でできること全般

（受験勉強や宿題以外の）読書のおもしろさ・楽しさを伝えること。意識啓蒙。（5人）

申し訳ありません。子どもがいないのでよくわかりませんが、身近に本がある環境にすること、そして親も、他の子どもに関わることでできる人も、本が楽しい、ワクワクすることを伝えることかな？読みなさい！と言う前に…。

難しいですが、地域での読み聞かせイベント等々で、本に触れる機会を増やし、その楽しみやメリットを理解してもらうようにする。

読書がどのように自分の将来にメリットが有るのか、丁寧に説明する場を設ける。（子どもだけでなく保護者にも。）

やはり何らかのメリットがないと読書してくれないと思いました。
 ＊アプリに読んだ本とちょっとした感想を入れることで「読書ポイント」（仮称）がもらえるようにする。
 ＊地域の大人がスポンサーになり、地域の子どもたちに読んでほしい本を提示し、その本を読んでもくれた子どもたちにちょっとしたプレゼントをあげる。

機会の提供という意味では、広く関心を高めて利便性を高め、機会提供するのが良いと思います。ですが、一番は、本人の興味関心と必要に応じて情報が得られるということだと思います。もちろん課題などの形で、動機付けも“最低限度”あると良いです。ただ現実、形骸化しがちです。子ども本人に、そういうシステムがあり、それを使って情報を手に取ることができる、ということを実感的感覚として分らせることが肝心かと思います。

大人になっても読書が好きになる継続性。

読み聞かせ会を行う。乳幼児への絵本の読み聞かせを行う。（4人）
簡単なエッセイの読み聞かせや朗読会からスタートしてみたり、にんじん作戦のようですがポイント制度を作ってみてはいかがでしょうか。
親子読書会、孫と一緒に読書会 大人が子どもに読み聞かせるのではない、子どもが中心となり親や祖父母に対して朗読をする。
（決まった日時に、みんなで）読書する時間・場所を設ける。（2人）
①一日の読書時間を決める事。②一週間の時間を決定する。③あらゆるジャンルを読ませる。④一冊の中で初めと終わりと中間だけでもよし。⑤1ヶ月に30冊～50冊と決める。人と議論することが少ない日本人には、国際人になるには、この習慣、知識が1%でも役に立って欲しい。
自由に読める場所を作る。自習の場所を増やす。
難しい設問です。区立図書館・学校であれば、reading timeを設ける等が考えられますが、家庭においては、親の読書関心度に左右されてしまうと思います。
読書感想文を書く機会を増やす。評価・表彰を頻回に行う。（2人）
読書コンクール等、地域オリジナルイベント開催
良書・新刊・人気の図書などの紹介を行う。（3人）
いろいろな本を紹介して欲しい。 学年ごとにおすすめの本やシリーズがあれば教えてほしい。 特に小学校低学年だと、全てにふりがながあってある本を探すのが大変で、ちょうどいいレベルの本がどれなのか学年ごとにわかると本を手に取りやすくなると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・推薦図書の冊子配布 ・読書会感想会（小中高に大学生が教える） ・映画鑑賞会
読みたいときに読みたい本が読める環境の整備。（2人）
新刊本を多く取り入れる（図書館や学校）。
電子書籍で読む環境が整っていればいいが、そうでない場合は学校以外で読んで物事を考える機会が減っていくように思います。本を手にとって少しの時間でも、その本の世界に入り込み“なるほど”と感動を覚えると本を読む事が好きになっていく気がしますが、そういった環境を時間を回りの大人が整えてあげる事が必要かと思います。本は、自分では経験できないような事を経験させてくれます。
本を読むまでにタイトル以上に興味を沸かすプロモーションが必要かなと思います。家庭は難しいですが。
本に興味をもってもらうように本の選び方チャートのようなものがあると興味のある本を簡単に選べていいかもしれません。学年ではなく趣味わけがいいと思います。最初の一步の本に興味を持つことを考えたほうがいいかもしれません。
身近に本を感じることができる環境の整備
いつでも、どこでも読書体験できるような仕組み（電子図書館など）の導入を検討してほしい。
ジャンルに関わりなく活字に触れる事を目標にして、漫画や漫画でたどる歴史など入りやすい本を揃える事から始めることが大切かと思います。
子どもたちが興味を持つ様々なジャンルの本に触れる機会があると良い。時間をとってじっくり本に関わる事も必要と思える。
できる限り多様なジャンルの図書との触れ合いを提供する。

子ども達に本を手にとってもらうには、区立図書館以外に、病院の待合所やスーパーや施設のキッズスペースに絵本を置いてもらったりすると良いと思います。家庭ではYouTubeばかり見ていて、本は全く見ないので、子ども向けYouTubeに本をテーマにした番組を作って、読書をすすめてほしいです。

書籍の電子化

有名人と一緒に読書活動を促進するキャンペーンを行う。

親（家庭）や学校で積極的にすすめる。

自分の子どもたちのことで恐縮ですが、一緒に本屋や図書館に行くと読みたい本が無いと言われます。これは本当に無いのではなく、探すコツが育っていないのでは？と感じます。良書との出会いの機会、演出方法などがあればいいのではないのでしょうか。具体的な施策がされているのは広報で見ているのですが、あともう一步、演出の工夫があったらいいかと感じています。

子ども達の視点で考え・感じた 社会の改善点を、図書、文献内容から纏め、発表しあえる機会・企画を設ける。

「読書」にこだわらないこと。

今は、ネットニュースで情報を得て、新聞取らなくなった家庭が多いので、子どもが文章を読む機会が減っていると思います。これは自然な流れなので、無理に押し付けることなく、学校や、ネットから読みたい本、雑誌の対象を得て、それを読むために図書館や、ネット購入に繋げるのが大事だと思います。

安易な考え方ですが、スマホを見る時間を減らして（無くして）好きな本を与える。

区立図書館に関して

図書館・読書に関するイベントの充実（2人）

図書館が身近にあることと、そこでのイベントが大切であると思う。

読書に関連したイベント。たとえば、不要になった本の交換会や、フリーマーケットでの販売を図書館や集会場、公園で行う。

地域（例：図書館）から子どもたちへの積極的な宣伝活動。幼児向けのイベント告知はよく耳にしていたが、小学生向けになると自分たちで情報にアプローチしないとわからない（そもそもやっていない？）ため、子どもが自ら図書館に行くきっかけがなくなっていると感じている。

老朽化した古い図書館の建て替え。
行きやすいきれいな空間への誘導と安全確保。

区立図書館は古くて使いづらく、立地も不便なところにあって行きづらい。綺麗で明るい雰囲気にして、入りやすくすべき。綺麗なのは中央図書館ばかりで、他の区立図書館は不便さが際立つ。読書スペースが少なく、図書館の中でゆっくり本を読むことができない。読書スペース（私語禁止）、自習スペース（私語禁止）、協働学習スペース（会話OK）など設けて、ひとりでいたい子どもも一緒に勉強したい子どもも応援できる場所づくり。

区立図書館を増やす、学校図書館を開けている（人がいる）時間を増やす、学校で本に触れられる時間（朝学習ではなくおはなし会等）を増やす。家庭でやれることは2極化するので、学校でたっぷり本に触れさせると子どもが本を読むようになると思う。

大きな図書館はたくさん作る事は無理だと思いますが、やはり家から遠いと図書館に行くのにハードルが高くなると思います。
それで小さめの本がある場所がたくさんあったらいいなと思います。

図書館へのアクセスをよくする、家で親が読み聞かせをする。

多くの板橋区立図書館は古く、子どもが行きたいと思う施設ではないように感じます。リフォームして複合施設のようにすれば、ついでに図書館にも寄るといようなこともあるのではと思います。

図書館内に子どもが気軽に集まって、本を親しめる環境を作ってほしいです。まだまだ、図書館は重苦しい空気です1人では近づきがたい場所と感じます。

図書館の近くに住んでいない子ども達のために移動図書館があると良いと思う。

- ・移動図書館など普段図書館に行く習慣のない子にも多様な本にアクセスする機会を提供すること。
- ・本の魅力を伝えていくこと。現在も図書館にはブックガイド等が置いてあり、また、おすすめの本などの提案があるが、学校、それも図書室以外での提供も必要ではないかを感じる。
- ・本の読み方や選び方のレッスンも効果的と感じている。本の味わい方や選び方、調べ方を教わる機会は少ない。

図書館の蔵書を広範にし選択肢を増やす。

区立図書館：所蔵図書分野・蔵書量の拡大、学習利用を考えた専門書の蔵書の充実
学校図書館：読書機会醸成のための興味・関心を引く蔵書紹介、学習利用を考えた専門書の蔵書の充実

区立図書館の本の入れ替えを推進する。定期的に見直しをし、貸出のないものは入れ替え対象にする。区立図書館と学校図書館の棲み分けを進めると、効率的と思います。

大人の読書空間との分離（図書館などで）
板橋中央図書館（上板橋）のような、くつろぎとエンタメ性のある施設の増設（中央図書館ほど大きい規模でなくても）

図書館の本の増加。図書館の増設。図書館が、寄贈しようと思った本を十分受け入れられるように。

読み聞かせ事業なども、区立図書館で定期的に進めていってもよいのかと（ボランティアなど）

子どもたちが読みたい本を並べる。図書館便りなどをつくる。

公立図書館で、小学生対象で、アンケート形式で興味ある事などを個々に取り、そのお子さんが興味あるジャンルやアンケート結果から合っているとされる本を紹介するイベントを定期的に行う。

家庭では本を読む事を強制しないで、親が短時間でも本や新聞を読む姿を見せるようにして、子どもに読書習慣を身につけさせる（この時、親も子どももデジタル本は使わない、読書かゲームかわからないから習慣身に付いたらデジタル本OK）

私には学習障害の子どもがいます。読みが苦手なので、本を読みません。読書習慣がつかず、中学生になってしまいました。本を楽しむ機会はありませんが、YouTubeやアニメ、映画などは楽しんでいます。図書館にリーディングトラッカーを設置する等、小さいうちから便利グッズが当たり前になればいいと思います。ある程度大きくなってから便利グッズを渡しましたが、既に読むことに嫌悪感があった為、定着しませんでした。

まず図書館は騒いでいい＆子を放置していい場所ではないという親の意識を持たせる。学びの場所と理解できた子はちゃんと本を読んでいるので。

学校図書館に関して

掲示や学校での教育活動の中での啓蒙。
学校で読書することに興味を持たせるよう啓蒙する。
読書コンクール、学校図書の実施
読書感想文を夏休みの宿題にし、小学生からコンクールを行う。
学校によるスマホの利用時間制限指導。図書館や本の購入による読書の推奨や、読書感想文の宿題などを学校で指導。
宿題に音読を実施させる（一週間連続で）。一か月もしくは10日に一度、感想文を書かせる。
以前からあることだが、学校で毎日読書時間を設けるのがいいと思う。
家では気が散るものが多く、働いている事もあり見張る事ができないので、学校で読書時間を強制的にとれば良いと思います。
学校で読書の時間を作る。 でも、感想を求めたりはしない方がいい。 感想文は苦手なもの。それぞれが自分で本を読んで自分の中で、楽しめば良いと思う。
学校での図書室の充実。ボランティアの力を借りていますが他の手立ても考えていったほうが良いと思います。
学校図書館の充実。学校などでの読み聞かせを増やす。本に親しむ機会を増やす。放課後の図書室開放。
学校図書館の本を、学校別に多種用意して、期間ごとに融通するシステム。学校図書館は貧弱に思える。
<ul style="list-style-type: none">・学校の先生（教師）に方策を考え実施してもらおう（画一的ではなく、個別のクラス毎に）・自由に児童と担任でアイデアを出させて、実行する。
学校内の定期イベントとして、ブックトーク、ビブリオバトルなどの読書後のアウトプットの機会を増やす。 全学校で読み聞かせ活動を増やす。 高学年では速読トレーニングを授業活動の一つとし継続実践する。

家庭での読書環境に関して

親が読書すること。
親が新聞を読んで、話せる機会があると良い。
家庭で親、兄弟等が読書をしているかが影響大となるので、家庭内での状況だと思います。まず親が見本を示すのがいいと思いますが。
興味ある選択肢がいっぱいある現代、読書にどの様に気持ちを持っていくかがある。まず、親が本読む姿勢を見せる。
先ずは親が読書に関心を持つことと思う。それには親子連れで図書館を訪れやすいイベントの開催など、親が行きたくなる内容の工夫が必要で、子どもが子どもに、と言う前に大人が何をすべきと思う。
我が家では両親が本好きで、書棚にたくさんの本があり、また父が私に読めるような児童書を買ってくれ、小さい時から本に親しむ環境にありました。この経験から、親が子どもと一緒に本を読む環境作りも一考だと思います。
大人が読書習慣を身に付けることのメリットを理解し、実践する姿を見せる。

家庭での読書環境が大切だと思います。
自分を考えてみれば、家で読書をする環境がなかったように思う。本から学べることの楽しさを知ることで、読書する習慣がつくのではないかと思う。自分はできなかったが、子どもはと思うと否であるように思う。やはり親の姿勢が子どもを育てるのだろうかと思います。

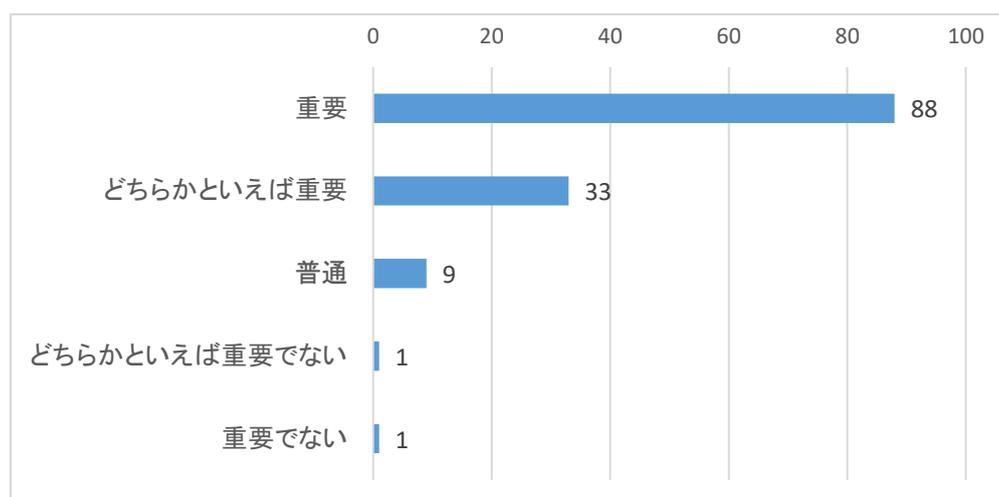
家庭で保護者に読書習慣がないと子どもも関心を持たないと思う。
またスマホやタブレットなどの電子書籍は大人には便利で、保護者もそれを利用して読書している場合もあると思いますが、子どもから見たら、ただスマホやタブレット等を操作しているだけに見えてしまうかもしれないので、なるべく紙の本を読むようにするほうが良いと感じています。

読書が、のちの成人後、問題解決能力の一部になることを認識している親世代が少ないように思う。
読書習慣が少ない両親のもとで育った子どもを救うことは非常に難しいので費用対効果が悪い。よって、公共の施設に投資するのではなく、求める家庭のみに、本以外購入できない仮想通貨をつくり、要求者のみに配布する。

読解力を身につける事は、最も大切な事だと思います。
一番良いのは、手の届く所に本がある事。家庭に本がたくさんあるのは理想だとは思いますが、なかなか難しいかもしれません。
昔ドラマでやっていましたが、学校で朝の15分間位一斉に読書の時間を設ける。これはタブレットの読書でもよいかもしれません。
「受験に役立つ」とは言いたくありませんが、問題の意味を理解するためには、必要な事だと思います。

子どもにとって、読書が大事と言う概念から見直し（大人にとっての読書のあり方もあると思う）、子どもが成長するにあたり読書のあり方、読書の長所を提示する事は良い事だと思うけれど、読書に取り組むかどうかは自由で良いのではないかと考えます。

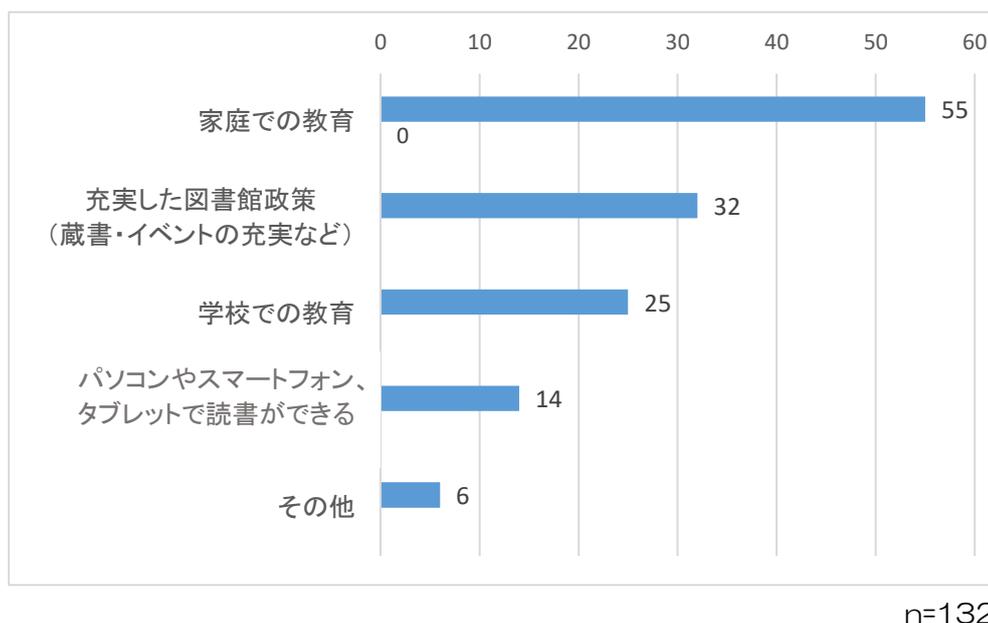
問7 子どもたちが読書を通じて学びや成長をすることの重要性について、あなたはどのように考えますか。



n=132

「重要」と回答した人が88人（66.7%）で最も多かった。

問8 子どもが自発的に読書をするために、最も必要なことは何だと思いますか。



「家庭での教育」と回答した人が55人（41.7%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・家庭での教育、充実した図書館施策、学校での教育のどれ一つ欠けても良くないと思います。一体化した形。

- ・学校での教育なのだが「読みなさい」ではなく、やってもらった事のない事はできない。本を読んでやって、面白さを感じ取ってもらう。幼児のうちに本に慣れさせておく。幼稚園・保育園でのおはなし会は大事だと思う。

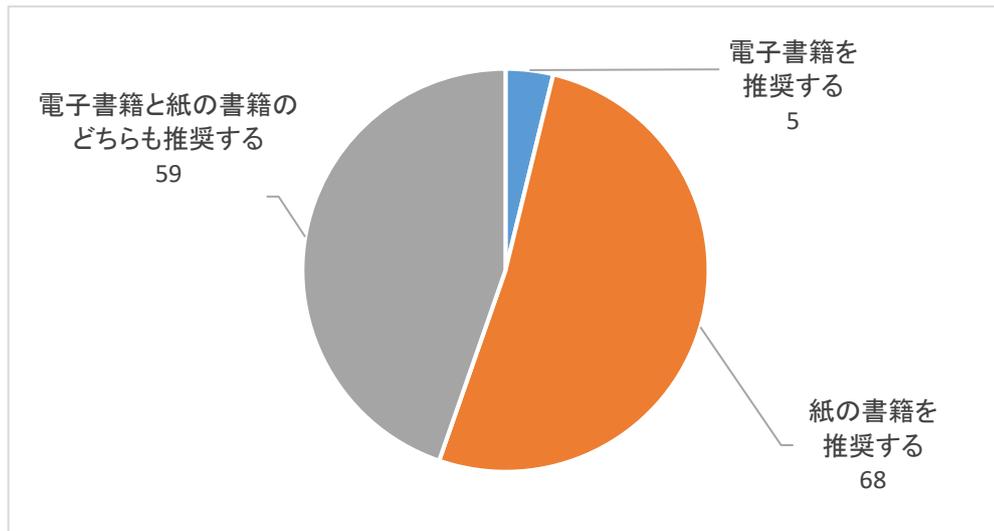
- ・個人の性質

- ・本を読む事で人はさらに多くの世界を学べるから本を読んでくださいではなく、本を読んだ事でこんな事ができるようになったとか、実際の社会生活の中での実体験を伝えて、子ども達自身の本への好奇心や、興味を醸し出させるような取り組み。例えば、実社会で働いている人や、退職された人達に実体験を学校で話せる場を設けるのも、一つの手段ではないでしょうか。

- ・興味が湧く材料を揃える事学術的な事では無く、日常生活の中のふしぎ発見や、全く逆の宇宙の始まりなどの、まだ誰もが真実を知らない事柄を追求する内容など大人(保護者)と一緒に会話できる様な内容の本をそろえる。

- ・自発的な子は10~20%くらい。皆がやればやる、仕方なくやるが7~8割、残りは無理やりさせる、しないと生きていけない。最後は恐ろしいと考える人が多いと日本人は思います。世界の現実を知らなすぎる親と子が多過ぎます。パレスチナでも、ウクライナでも、その他貧困、紛争などで本を読めない子どもが先進国以外には8~90%くらいの人がある機会を与えられていない。難しいがこの点を前者に説得できるかどうか？悲観的ですがこれに掛かっています。

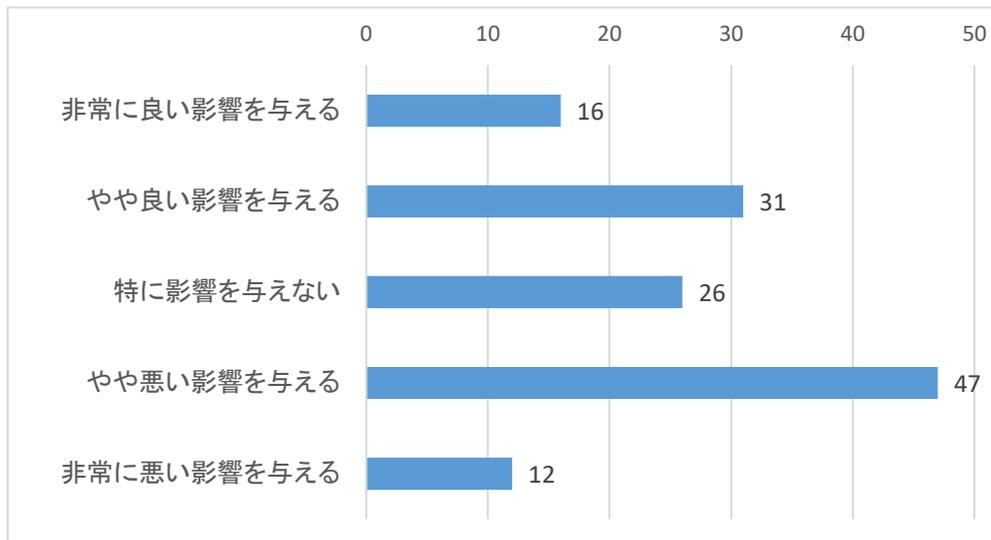
問9 電子書籍と紙の書籍、どちらを子どもたちにより推奨しますか。



n=132

「紙の書籍を推奨する」と回答した人が68人（51.5%）で最も多かった。

問10 将来的に、インターネットとデジタル最新技術の普及が、子どもたちの読書習慣にどのような影響を与えると思いますか。



n=132

「やや悪い影響を与える」と回答した人が47人（35.6%）で最も多かった。

問11 板橋区の子どもたちの読書習慣を向上させるため、区が取り組むべき主な取組みは何だと思えますか。(自由回答)

区が取り組むべきこと全般

環境づくり（家庭環境に依らず好きな本を読める環境、読書しやすい環境）（2人）
問8で回答したが、行政・学校・家庭が一体化し、自発的に取り組めるよう環境作りをすること、と考えます。
大人達やお年寄り、行政、町会・自治会なども合わせて多くの人達の参加が必要かも。
自主的な読書習慣。親の自己満足ではダメ。
無理強いをしないこと。
周りの大人たちが読書する。無理強いしない。デジタルを批判しない。うちの小学生の子どもたちは、自ら読書は少ないが、読み聞かせると聞いてくれる。
読むことを強制させるのではなく、読書の面白みなどを伝えるようにする。子どもだけでなく、親にも伝える。
本人に読む、読みたいという意志がないと意味がない。本を読む楽しさを伝えていくしかないと思う。区がやることはなにもないと思う。
子どもが本に触れる機会を多くするには、親の意識も高める必要がある。親への啓蒙活動。
大人の読書習慣をどう持たせていくかだと思う。
読書がどのように自分の将来にメリットが有るのか、丁寧に説明する場を設ける。(子どもだけでなく保護者にも。)
私たちはやはり紙の本がいいが、デジタルを使えば何冊もの重い本が一つですむ。本のいいところは、マンガや映像とちがって、顔や声などが読者一人一人想像できる場所だと思う。そのおもしろさを知ってもらえるといいなと思っている。
インターネットでは狭く偏った情報の習得になります。本を選び読書することは、広い意見情報の知識収集になります。そのような環境（各図書館等）を維持し広報活動することは子どもの成長に重要だと思います。
区がやる事が分かりませんが、この本読んでみたいと思わせる機会が多くあるといいのでは・・・映画やTV番組の紹介は拝見しますが、本の広告は電車の中くらいでしょうか？
絵本のまち板橋とPRしてますが、まだまだPRが足りない気がします。素晴らしい中央図書館もあるので是非絵本の良さや本に対する興味が必要かと思えます。
今まで通り、「絵本のまち」としての取組みを、電子・紙書籍共にすすめて共有できるようにする。そこから、他の分野の書籍にも広げていくことができれば良いと思う。
読書は言語活動に考えられているが、体育や音楽、英語のように実技科目でもあり、トレーニングが必要だと思います。精読だけでなく、スキミング、スキミング、速読のスキルが受験、社会生活にも最重要であることを親子、教師も再認識すべきです。ただ「読む」というだけでなく、語彙の増強・言い換え、物語や説明文でも感想や意見を表現できるよう、ダイアログリーディングやビブリオバトルなどで外在的に記録・表現することを普段の「ただ読む読書活動」に加える。「読む」→「読み砕く・読み込む・表現する」ための具体的なアプローチを実践するよう意識する取組みを始めるべき。
読書と現実(読書の内容を実際に検証出来る施設などの整備)が大切と思う。読書の空間と現実社会の融合は興味が湧くと思います。

以前、図書館についてでも同様の話があったと思うが、区が子どもたちの読書習慣が重要と考えるのであれば、デジタル書籍の充実やweb利用した貸出・返却システムの推進等が必要かと思う。
ただ、インターネットが普及し、情報は本からでなくとも入手できる現在、読書という習慣自体そのものの是非を考えるべき時なのかも知れない。

先述の通り、ふりがなが全部ふってある本を低学年向けに紹介したり、絵本からステップアップする本をたくさん紹介してほしい。
高学年向けには、漫画やアニメの小説版がたくさんあると子ども達は手に取りやすいかもしれない。

読書する為の良い本と言われる本達も、もちろん大事です。
子ども達が読みたい本を読む事に重点をおいてみたら良いのかなあとと思います。

おすすめの本の紹介

いつでも、どこでも読書体験できるような仕組み（電子図書館など）の導入を検討してほしい。

電子図書の実

読書推進のための表彰や褒章、優良図書の贈呈や優良図書等の紹介

情報リテラシー
多角的啓発
楽しく過ごせる場の提供

※私の子どもがお世話になったのは2～5歳の頃で、その後他区に転居して10歳程で戻って来ました。幼少時は高島平の図書館が使い易そうだったので、週に10冊程度借りて読み聞かせしました。そのためかどうか、子どもは本好きに育ちました。ですが私自身は、学校図書館の本を親だけが読みました。読書感想文は親が書いてくれましたが、賞をもらって全校集会で発表する時に読めない漢字があって困りました。ですが、ネット社会になってからは、情報吸収は誰より抜きんでたかと思います。本というのは、ハードブックを言うのか、それとも何なのか、という意味もありそうです。

スマホやタブレット等情報端末による文字情報と、本による文字情報との間に明確な差異があることを児童に認識させること。

インターネットより実際に本を読むことを奨励してネットは辞書の補填とする。

デジタル多様は、特に書籍に関しては、子どもには特によくないと思う。じっくり考えたり読み込む力がつかないと感じるし、なにより目や健康によくないから。

区立図書館と学校図書館の充実であると考えている。
人員面も予算面も充実させることで本の魅力を伝えていくべきである。
必要な本の選定と購入、そしてイベントや展示等による利用者への働きかけが必要であり、それを実現するには人手も予算も必要になる。

- 図書館と学校の連携
- 図書館の学習コーナーの充実
- 職業体験
- 区役所の配布パンフレットの読書会（読み方、何が書かれているか、どのような政策か、などを子どもの目線と大人の目線で意見交換）

読書習慣が子どもたちに与える効果の調査。

- そもそも読書習慣を身に付けさせることに、どのようなメリットがあるのかを明示して欲しい。
- 鎌倉幕府の成立年が、平成初期と令和で教えている内容が異なる等、古い本は当時は正解でも、研究の進展や時世の変化によって、現代では誤った知識を入れてしまう場合がある。その回避策を講じて欲しい。
- 漫画も選択肢に入れたい。

紙ならではの温もり、匂い、手触りがあってこそ。大好きな本を大切にページをめくり擦り切れるほど繰り返し読んでおり、大人になっても深い記憶に残っていると感じています。電子機器は便利かもしれないけれど、本の香り、借りた本は次に読む人へ想いを巡らせ大切に扱うことすら学べない。昭和の金沢小には、ふかふかカーペットが引いてあり寝転がって本を読むことが出来ました。図書室のほとんどの本を読みあさった楽しい記憶が残っています。

読書をする漢字（ルビがあるもの）が読めるようになる。

減税をし現役世代や子どもたちの選択肢を増やす。

難しいでしょうが、空しい気持ちになるかもしれませんが、何とか考えましょう。一つだけ、私たち高齢者、親御さんの考え方、ものの見方を変えさせる事。時には最先端の文明＝IT、AI、トランスジェンダー、自動運転等々から遠ざかる事。人間の原点、本質これらは2千～3千万年前に類人猿から推移して人類になってから、子どもの誕生や、感情、身体、精神の働きにはほとんど変化はありません。この原点や基本を無視するところに世界中で問題が発生しています。今後ますます、大きく激しくなって来るかも知れません。

施設・蔵書など

お年寄りと子どもが一緒に集いあえる場所にする。

図書館リフォーム

充実した施設の確保

板橋区には、たくさんの図書館があります。ただその図書館にも設備の大小があり、子ども達はどうしても近くの図書館に行かざるをえないため、得な子と損な子とが出来てしまうと思います。板橋の図書館を循環する無料バスを作ってはどうか。子ども達もお年寄りも気軽に遠くの図書館に出かけられます。本を読むことに興味のなかった子も、本を探して読むのが好きになるかもしれません。図書館がじっと待っているだけではなく、子ども達の方から来てもらう、そんな発想はいかがでしょうか。

読書バリアフリー法を意識した施設作り。
読めない人がいるかもしれないを前提に、区役所窓口等で対応をして欲しい。
予算をつけて、区立図書館や学校図書室にりんごの棚を作って欲しい。
板橋区図書館の電子図書に、読み上げ機能の書籍を増やして欲しい。

↓を全小中学校に設置。各学校に任せるのは負担が大きいので、板橋区が環境を整える。
『読みに困難がある子も読める音声付きの図書を、学校図書館から貸し出せる方法』
<https://note.com/inoue2021/n/n9821ec996a22>

移動図書館や、各地域の施設を利用した本の貸し出しなど、図書館が近くにない子ども達でも、手軽に本を借りることの出来る場を作る取り組み。

公共施設の一隅に狭くてもよいので読書コーナーを設けること。

本来なら家庭や図書館で子どもたちが本に関われば良いが、時代も変わったのでそうはいかないと思う。習い事などで忙しい子もいるし、図書館は静かに過ごさなければならない。アイキッズの図書を充実させるのも良いと思うが、区内の小学校を利用してないと他の子どもは使にくい。子どもが気軽に立ち寄れる場所で気軽に手に取れる機会を増やして欲しい。

図書の入れ替え、図書館整備の予算確保。司書を活用して、学校図書館と区立図書館の棲み分けを推進する。

- ・司書職員の充実
- ・区立図書館の閲覧席の増設（図書館で読書する場所が少なすぎる）

児童生徒に好まれる作品を把握する。

話題になっている本などは予約待ちしなくても借りられるように多めに仕入れる。

1年生～9年生の奨励する本を選定して、推薦を出す。

様々なジャンルの本を取り揃えておくこと。
結局は各々の資質で読む本を取捨選択して影響を受けるから。

第一に、地域図書館で本を借りやすく返ししやすい仕組みづくり（街なかのスペースや空き家を利用した出張図書館など）。第二に、蔵書の充実（紙、電子書籍ともに）。地域図書館の読書スペース・自習スペースの拡張。本のクリーニング（ボロボロの本や不衛生そうな本をたまに地域図書館で見かけます）。小中学校で朝の読書時間（10分程度）を取り入れる。絵本や児童書の原作者を呼んでイベントを行う（トークショー、物語のつくりかた講座・ワークショップ、原画展、フォトスポット、グッズ販売）。学校の授業の中でもっといろいろな本のお話を（そのために小中学校の先生も本を読んでいる必要があると思いますが、読めていますか？）

イベント・企画など

（図書館などでの）イベントの充実（4人）

子ども達が興味を示すようなイベント（2人）
（子ども達に人気のある本の作者の講演会、人気ゆるキャラや声優によるイベントなど）

身近なところでは、NHKの大河ドラマや、朝ドラのテーマに沿った内容の本をイベントするか、興味を持つ方法を考えると良いと思います。

図書館利用の回数や時間の多さを競う企画

読書通帳や読み聞かせ会とか面白いと思える企画は用意していただいていると感じます。その上で、前述のようにあと一步の演出が欲しいところ。わかりやすく楽しく自発的に子ども達が動く動機づけになるような企画を待ってます。

- ・YouTubeなどでオススメ本の紹介を連載する。
- ・子ども達自身が担い手になって未就学児向けの企画を考えてもらうワークショップを開く
- ・通帳の仕組みはとても楽しいと思うので、インセンティブの拡充
- ・読み聞かせ会の読み手に子どもウケする人を招く（Vtuber、声優、舞台俳優とか）
- ・映画、ドラマ、アニメなどの映像化作品と原作本との対比読み比べ
- ・作家さんを招いて、物語を作る側のワークショップ

中央図書館が近く良く行くが、絵本イベントはあるが、小学生向けイベントはないように思う（開催していただえずみません）。

先の質問にも書いたが、小学校の時に読む習慣を身につける事が大切と思うので、小学生が参加する本紹介イベントや読書感想お話を低学年高学年別に、公立図書館で行い、参加者には賞品やポイントつけるなどして読書意欲を上げるイベントなど開催などすると良いかと思う。

<p>YouTube世代の子ども達に読書の習慣をつけさせるには、図書館でのクイズラリーで読書をさせたりする。（でも以前、クイズラリーで子ども達は本で調べずにGoogleで回答を調べていた。）区役所で、待ち時間が長いので、各窓口の待合所に本を置いたら良いと思う。特に1F窓口は、3月・4月にイスに座れず立って待っている人が沢山いて、そういう時こそ本を設置して区民に読んでもらいたいです。</p>
<p>以前、氷川図書館で行っていた、子ども向けのスタンプラリー？クイズラリーだとか、読書ビンゴ？は、参加賞欲しさ、というところはあると思われるが、ゲーム感覚で図書館で本を探したり本を借りたりして、楽しんで参加していた。本を読む読まないは別として、図書館に行くきっかけにはなると思った。学校では図書館でやっているイベントがわからないので、そういった横の連絡（お知らせ）なども提供してくれるとありがたい。 図書館に足を運べば、いろいろなイベントがあるのに皆知らないのもったいなあ・・・といつも思う。</p>
<p>小さめ子どものイベントばかりだから親が暇な人が連れて行くのでどうしてもなんというかカオスなんですよ。 中央図書館のせいで公園がほぼ駐輪場と化してる。あの美しい公園はもうないのだ。そして本は読まず公園で遊ぶ親子。図書館の作る場所を誤ったね。 子どもたち集まれ～ではなく（そうすると行ける暇な親家庭が集まるだけ）、地域を限定し個別に招待状がだせるくらいの小規模開催、年齢を細かく区切って高学年や中高生が取り組めそうな催しもするべき。学校行きたくない子もひとりでそこまで歩いていける距離に定期的に図書イベントがあったらどれだけ救われるか。</p>
<p>読書感想文コンクールの実施（2人）</p>
<p>毎回、年齢別に課題本を設けて、読書感想文の公募と表彰式と発表会。年4回ぐらい開催。</p>
<p>ブックスタートはとても良い取り組みだと思います。絵本関連のイベントなどを増やして欲しい。</p>
<p>読書は小さいころからの慣れ、習慣である。人から読んでもらったから、自分で読むことができるようになる子の方が多い。賢い子どもが増え、絵本を読んでやっても字ばかりを追って、絵を見ず情緒が育たない。ブックスタートはとてもいい活動だが、図書館に行かないともえないというのは他にやり方がないのだろうか。0・1・2の頃から保護者が本を読んでやる習慣をつけることが大事ではないだろうか。出生届の折に、乳児向けの月刊誌を1冊渡すのはどうだろうか。何に付けても乳児・幼児向けのおはなし会の機会を増やすことが大事だと思う。</p>
<p>財源があれば…の話です。 全ての生徒は無理であれば、3年生になったらまたは2年生になったら、0年生記念に本をプレゼントする。楽しい、または調べたくなるような…</p>
<p>保護者の理解への取り組み</p>
<p>地域の図書館や書店の存在を子どもたち親たちに知ってもらって、読書のたのしみを感じてもらおう取り組み。 「絵本のまち板橋」の継続</p>
<p>子ども同士の読み聞かせ</p>
<p>読書の質と量が向上していることがわかるよう何らかの形で見える化するとよいと思います。単に読書しようというのではなく、読書に関する様々な事例を紹介するのもよいかもしれません。 読書に関するイベントを企画立案するのも面白いかも。テーマや仕掛けが必要。 「板橋区の子どもの読書習慣を向上させるため、区が取り組むべき主な取り組みは何だと思いますか」を問いにした、「ワールドカフェ」を開催してもよいと思います。 ※ワールドカフェは、アイデアを出す場です。</p>
<p>板橋区内の本屋のみで使える、本購入限定のクーポンを（紙媒体でもOK）、二次元コード等の仮想通貨を使い、求める家庭にのみ供給する。 二次元コード等によって購入された本は、データを集積し、購入場所、購入年齢等を本取次会社にフィードバックしシステム経費を負担させる。</p>

学校等での取り組み

授業として読書の時間を設ける。(2人)
読書時間拡充の推進(家庭や学校) 図書館、学校の図書室充実させる。古い本が多く、楽しいイメージがない。
学校で朝の数十分、読書の時間のような時間を設ける。 図書と触れ合う機会の創設
学校の朝の時間などに(授業前)10分読書の時間を設けるなどの、強制力のある取り組みをすることで本を読む習慣ができるように思う。
学校での読書時間の確保(図書の時間は既にあるので、例えば、朝や昼に少し読書の時間を設けるなど)。
読書感想文のススメ
例えば、読書感想文等のコンクールを行い、応募者全員に図書券を配布する。
読書感想文のコンテスト→是迄の内容・趣旨を発展させ、学校の成績や入学試験内容にも反映させる。
家庭で習慣化できることが望ましいですが、事情もあるご家庭もあるでしょうから小学生から毎日の朝読書時間を確保できると集中力もついていいように思います。 低学年は読み聞かせ、中学年から生徒が読み聞かせをする。高学年から読書など形を変えるのもいいように思います。 読書したものの感想を発表し合う。 普段から発表していれば夏休みの読書感想文もハードルが下がるように思います。 私は子どものころ読み聞かせの環境がなく読むのが苦手でしたが、大人になって興味があることについて調べると読書が楽しくなりました。子どもたちも興味があることから入れば読もうと思うのではないかと思います。
塾講師をやっていましたが、インターネット環境は、俗に言う「できる子」は自ら進んで有益な情報を探し、学びに結び付けるが、「普通の子」以下には、時間潰しのSNSやゲーム等、悪い影響の方が多かったです。よって、図書館や本の購入による読書の推奨や、読書感想文の宿題などを学校で指導した方が良いと思います。
学校図書館の充実。スタッフの処遇改善を含む
学校図書館の充実。 貸し出し本の冊数を増やしてほしい(同じ本を3冊以上)。 貸し出し中で読みたいときに読めない。他の図書館からの情報を掲示してほしい(貸し出し中でない本・どこの図書館にあるかなど)。
子どもが入りやすい雰囲気となるような図書館(学校内図書室)の整備。
毎週末に各図書館や平日の夕方に学校図書館、夏休みや春休みを通して。声を出して読むエッセイの朗読会や読書をしたことが証明できることが前提ですが、子ども限定のポイント制度をはじめてみることも、朗読コンクールや逆に少人数での季節にあった書籍の読書会など。
あいキッズで過ごすことが多くなっている子ども達に、直接近くの図書館員の方が、図書館に置いてほしい本などのアンケートや話を聞きに来てほしいです。図書館員の方とも顔見知りになれば、安心して図書館に足をはこべるようになるのでは、と思います。
学童の場に、子どもに人気のある本を用意する(一部漫画も含む)。
保育園、幼稚園時代に絵本をたくさん読む環境があると小学校でも本を読むと思うので就学前に何か取り組んでいけたらと思います。

幼稚園・保育園に通う頃から、各園にて30分～60分くらい、学生・シルバーの人々などのボランティアによる、児童書の読み聞かせを続けて本人興味を持ってもらう。小・中学校でも、読書の時間を作って、感動したり考えることを増やす時が必要な、と思います。自分のことだけでなく、人への思いやりや世界の人々への関心にもつなげていける子どもが増えるのでは。

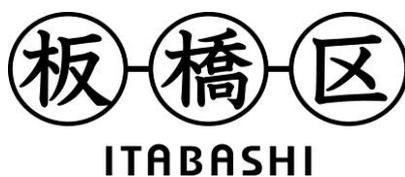
図書館の数は限られているので、例えば土日の学校で、図書室を開放して親子で利用できるなど本に触れる機会を増やす工夫はどうでしょうか。
中央図書館は素敵ですが、うちの地域からはあまりにも遠くて不便。1学期に一回でもバスなどで学校から図書館に行く日をつけては。

読書の習慣化。
学期に一度無償提供の機会を作り子どもたち本人に一冊だけ好きな本を選ばせる。様々な分野の本を用意して本人の自主性に任せる。本を選ぶ楽しみを経験させるイベント。
可能性を限定しない。

小学校の朝の読み聞かせのボランティアをしていたことがあります。
みんな、とっても真剣な眼差しで、聞いてくれていました。
今もやってるのかな？そういう時間が、大切だと思います。
なかなか、親御さんも忙しくて、ボランティアの人数はその当時でも少なかったです。
区がバックアップして、学校での読み聞かせをしたらいいのではと思います。
もう取り組んでいたらすいません！
とにかく、本に触れる時間を作ることが一番です。

区ではなく、学校教育が重要だと思います。

学校教育の中で大きく取り組む。
書店が少なくなっているので、スーパーなどでもコーナーを設ける。



いたばし・タウンモニター いたばし・eモニター 令和6年度 第1回アンケート結果報告書
子どもの読書活動推進について

令和6年 5月発行

刊行物番号
R06-22